

令和6年度 学校評価一覧

本年度の 重点目標	① 各部の系統性を踏まえ、一人一人に応じた教育の充実を図る。 ② 仕事の効率化や業務内容の改善を行い、教育活動の充実に努める。		
担当	重点目標	具体的方策	最終評価
総務部	・「SDGs(Sustainable Development Goals[持続可能な開発目標])」を意識しながら、学校環境や業務内容の整備に取り組む。	・「SDGs」に対する昨年度の取り組みを継続し、児童生徒の視覚に訴えられるよう校内掲示を増やす。 ・紙の節約及び仕事の効率化を図るため、印刷物の量を減らすなどの取り組みを率先して行う。	・児童生徒が視覚的に分かりやすいように、節水、節電のイラストを活用した掲示物を各クラス及び特別教室に掲示した。どの教室にも、掲示物が貼ってあり見ることができるため、視覚的な効果はあったと思われる。 ・月行事予定表の全職員配布をやめ、データ配付を基本とすることで紙の節約に努めた。また、ある程度印刷した物を準備しておいたり、コピーできるように原本を置いておいたりすることで、必要な職員には使ってもらえるようにした。まだ節約できる所は多々あると思われるので、次年度も必要な物と、なくしてもよい物の見極めをきちんと検討しながら節約に努めていきたい。(達成度 70%)
教務部	・学びの連続性を意識し、個々に応じた学習の充実を図る。 ・諸表簿等の作成方法の見直しを行い、限られた時間を有効に活用できるようにする。	・個別の指導計画、教育支援計画等を確認し、現段階での課題を明確にして個々に応じた目標を設定し、児童生徒がより成長できるように支援する。 ・今までの課題を整理し、部会等で意見を聞きながら改善していく。	・会議や研修で、教育課程表の説明や年間指導計画、個別の指導計画などの作成意義について説明を行ったり、全校研究で作成した社会、理科指導内容一覧表やキャリア教育の内容一覧表の活用を促したりすることで、児童生徒の実態に応じた目標設定を行うことができた。また、前期の評価や有効であった手立てを確認することで後期の学習につなげることもできた。小学部から中学部、中学部から高等部への進学に際しては、今まで学んできたことを引き継いで、学びを一層充実できるように、作成した文書を整理して活用できるようにしていきたい。(達成度 85%) ・学級経営案や個別の指導計画について、作成手順や記載内容の見直しを行い、文書本来の作成意義を損なわない形でより活用できるように書式の改善を行った。来年度、この書式を使用することで、文書作成に費やしていた時間を教材研究や授業準備などの時間に充てることができるように

			なると思われる。 (達成度 90%)
生徒指導部	・「いなざわスタンダード」を掲げ、学校基準の制服の着用を示し、児童生徒への周知を図る。 ・業務の見直しや改善を図ると共に会議への提案を減らし、校務運営を円滑に進める。	・学校の推奨する制服の着用をイラストや図で示し、児童生徒が身だしなみについて主体的に考え、行動選択できるように支援する。 ・各部集会や選挙等は、年間計画を年度当初に提案し、以後はグループウェアを活用し周知する。 ・メール配信を活用し、保護者宛ての文書の印刷・配付の業務を減らすなどの取り組みをする。	・服装規定が年々変更されている昨今、内規への理解が交錯し、混乱が生じることが予想された。そこで、本校の基準となる服装規定をリーフレットにまとめ、掲示した。取組み初年度のため、場面を限定（廊下掲示、衣替え文書に添付）してリーフレットを活用した。生徒自身が身だしなみを整えて学校生活を送ることができたことは成果であると考え。生徒の選択肢が増え、幅を持たせる（任せる）部分を増やす改定を行っていることを生徒が理解し、主体的に礼儀や思いやりを持った行動選択ができるように「いなざわスタンダード」を活用していきたい。 (達成度 80%) ・「長期休業前のお知らせ」「スクールバスの運行経路について」など、これまで文書や短冊で保護者に連絡をしていたことをメール連絡に置き換えた。混乱等はなく、業務軽減に繋がった。(達成度 90%) ・「選挙」「部集会」「交通安全教室」「通学指導」などこれまで学期ごとに立案していたものを、年間計画に置き換えた。実施期日が近くなったらグループウェアで情報周知することで混乱なく実施ができた。しかし、共通書式集でのデータ管理を十分にできなかった。今後は、共通書式集の整理や活用の仕方を検討していきたい。(達成度 80%)
今年度、いじめの認知はなかった。 来年度についても、本校のいじめ防止基本方針に則って調査・対応をしていく。			
進路指導部	・保護者説明用資料の充実を図る。 ・進路関係表簿の見直し	・昇降口横の進路指導部掲示板を活用して、学区域内外の協力企業や福祉事業所などの資料を掲示して、情報提供する。 ・進路説明会での情報を更にわかりやすい内容で提供する。 ・実習評価表などの入力書	・昇降口横の掲示板に進路関係の資料等を掲示して、企業、職業訓練校、福祉事業所などの情報提供を行った。定期的な情報更新が十分でない時期があった。 ・各部の進路説明会では、パワーポイントを効果的に活用し、参加された保護者に対して分かりやすい情報提供ができた。保護者からも高評価を得ることができた。今後も、新鮮な進路情報を提供できるように努める。 ・高等部の実習評価表をはじめ

	と改訂。実習の新評価表の導入と入力書式の変更・更新を行い、適切な評価に結び付ける。表簿入力職員の負担軽減を図る。 ・中高各部でのキャリア教育の成果を得るため、高等部見学の機会を設ける。	式を改訂することで、生徒の評価をより適切に行えるようにする。また、入力者の効率的な入力作業が行えるようにする。 ・中学部の生徒が高等部の校内実習を見学する機会を設定し、進路意識の向上を図れるようにする。	とした各種表簿を見直し、担任からの相談から書式を改善したり修正したりして、生徒の実習成果や実情を、より適切に評価できるようにした。また、入力者の作業効率を改善することができた。 ・小学部6年児童が中学部作業学習を、中学部3年生徒が高等部校内実習を見学する機会を設定した。キャリア教育の一助となるように、児童生徒の進路意識の向上や見学を引率した教員との共通理解や意思疎通を図ることができた。 (達成度 90%)
保健体育部	・一人一人に応じた保健・安全教育や健康の保持増進の取組について、より一層の充実を目指す。 ・業務の見直しや改善を図ると共に校務運営を円滑に進める。	・肥満指導や食育指導などの個々の健康課題や安全教育などについて、情報提供や指導内容の充実などを関係者と連携を図りながら進める。 ・各担当者と連携し、業務改善に努める。	・肥満や咀嚼、食べ方、歯磨きといった個別の健康課題に応じて、担任や保護者と連携したり、必要に応じて学校医に助言を求めたりして、個に応じた指導を進めることができた。 (達成度 80%) ・校務会で情報交換を行い、各担当からの連絡や情報共有を図ることができた。また、業務の見直しについても情報交換を行い、慣例に倣うのではなく新しい視点から業務について考えることで、改善点を見つけることができた。次年度に向けて改善すべき内容を見直し、校務内で業務改善に向けて動き出すことができた。 (達成度 70%)
教育支援部	・児童生徒及び教員への校内支援の充実を図る。 ・センター的機能の充実を図り、地域の関係機関と連携し、情報を発信、提供する。	・現職研修やケース検討会などを行い、校内支援を充実させる。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについて周知し、ニーズに応じて連絡、調整を行う。 ・ふれあい相談について市町の広報誌に掲載し、ニーズに応じて特別支援教育についての助言、情報提供をする。 ・巡回、指導検討会のための事例検討会を行い、二	・スクールカウンセラーによる夏季現職研修や、外部講師を招いた夏季研修会を実施することができた。高等部については月に1回程度ケース検討会を行い、支援や関係機関との連携につなげることができた。 (達成度 90%) ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについて支援部だよりを通じて職員や保護者に周知することができ、昨年度よりも相談件数が増えた。人数が増えたため、利用の確認や時間の調整などがスムーズに行える体制を整えていきたい。 (達成度 70%) ・4月と10月に市町の広報にふれあい相談について掲載し、普及を図ることができた。 (達成度 90%) ・少ない回数ではあるが、事例検討会を行い巡回相談に生か

		ズに応じた巡回相談を行う。	すことができた。来年度は、巡回相談の際に参考となる資料の作成を進め、職員の知識の向上とニーズに応じた相談活動を行っていきたい。 (達成度 80%)
情報教育部	・ I C T 機器や支援アプリを効果的に活用した実践の充実を図る。 ・ 各業務についての見直しや機器・アカウント管理の工夫・改善を行い、負担が少ない校務運営を進める。	・ 教職員向けに I C T 機器や支援アプリを活用した実践の紹介や研修会（夏季希望者研修等）を開き、取り組みやすい実践例を増やしていく。 ・ 児童生徒が主体的に I C T 機器や支援アプリを活用できるようにする。 ・ 各業務の分担を工夫し、特定の職員に仕事が偏らないようにする。 ・ 次年度担当者への引継ぎとして、簡単なマニュアルやスケジュールを作成する。	・ 夏季希望者研修では、絵カードコミュニケーション等では使える支援アプリの制作研修会を行った。本校職員の実践をいくつか紹介し、教材を作成することができた。 (達成度 80%) ・ 児童生徒のタイミングに合わせてタブレットの活用ができるように、一時的な教室保管ができるようにした。タブレット活用の機会が増えた。 (達成度 90%) ・ 情報教育部会の際に、各業務の進捗状況を確認し、部会記録に記録し可視化している。人手が必要な時には、日時を決めて担当者を中心に参加できる職員で対応するようにし、互いに声を掛け合って作業できた。(達成度 100%) ・ 各業務担当者は、引継ぎの際の参考となるように、業務手順マニュアルや必要なアカウント、ログインページなどを所定の記録ページに書き込んで引継ぎ資料としている。特に複雑な作業は、口頭だけでの説明にならないようにして伝えられるようにしている。(達成度 80%)
図書部	・ 図書室の環境の充実を図る。 ・ 児童生徒の読書活動	・ 児童生徒の実態や職員のニーズに応じた図書資料の充実に努めるとともに、誰もが利用しやすい図書室となるよう環境を整える。 ・ 図書室オリエンテーショ	・ 図書委員会の活動として、プレゼンテーションソフトを活用して図書の紹介を行ったり、図書室の利用方法についての紹介動画を制作したりした。 ・ 読書週間では、図書室内にコーナーを特設するとともに、職員によるお勧めの本やテーマに関する図書を紹介して閲覧できるようにするなど、より多くの児童生徒が読書活動に取り組めた。今後も感想画、文を多く募集して体育館前に掲示して今後の読書の啓発につなげていく。読書週間中は、図書室内に書画カメラを常設し、使い方を具体的に示し読み聞かせに活用するように職員に対して機器の活用を促す。(達成度 80%) ・ 図書室オリエンテーションで

	を推進する。	ンや読書週間等での取組、新しい図書や季節や題材に合わせた図書の紹介を通して、児童生徒と職員の積極的な図書室利用を促すとともに読書活動の充実を図る。	使用するシールを各クラスに配付したことで、図書室利用につながったとの声があった。図書室内外の掲示や、としょだより等で、新しく入った本やおすすめの本を周知していく。 ・人気のある本を手に取りやすい高さの棚に並べたり、授業で使用する辞典や児童が興味のある絵本や図鑑を増やした。今後も児童生徒が興味を持って本に触れられるよう工夫を行っていく。（達成度 90%）
研修部	・ 職員の専門性の向上を図る。	・ 研修では、職員の関心や必要性の高い内容を選んで計画する。 ・ 研究では、キャリア教育で育成すべき4つの能力について、系統性を踏まえた各部の目標や必要な指導について検討する。	・ 年間5回の全校研修を計画し、1学期に「情報モラル」「救護・救急法」「指導法」、2学期に「人権」「教材・教具展」を実施した。 ・ 「指導法」の研修は、外部講師の作業療法士の方に、感覚統合の講義や事例に対する助言をしていただき、勉強になった。 ・ 「人権」の研修は、『県政お届け講座』を活用し、ヤングケアラーとは何か、どのような困難を抱えているのか等について学ぶことができた。 ・ 夏季現職研修を夏季休業中に実施した。他分掌と協力して、必要な内容を検討して実施した。ICT機器の研修や授業で活用できる手話やデッサンの講座など様々な内容で19の講座を設けた。また、福祉サービス事業所やスクールカウンセラーなど、外部の機関や講師の協力も得られたことで、より専門性を高める機会になったと思われる。自由参加だったが多くの職員が参加し、専門性の向上を図る機会とした。（達成度 90%） ・ 昨年度から引き続き、本校のキャリア教育について、年間5回全校職員で研究を行った。 ・ 初めに、昨年度までの取組みやキャリア教育について確認し、全職員の共通理解を図った。 ・ 今年度の取組みである「キャリア教育段階表（モデル案）」作りに向けて、小学部、中学部、高等部の職員が混じったグループを編成し、グループごとにそれぞれの発達段階で

			育成したい能力や必要な指導について話し合った。 ・各グループで重点的に育成したい能力を、系統性に考慮して整理することができ、キャリア教育の視点で段階的に指導支援する際の参考にできるモデル案になった。 (達成度 85%)
自立活動部	・自立活動の指導の充実を図る。 ・マニュアルを作成し、円滑に業務を進める。	・自立活動に関する研修を行い、知識を深め、支援や指導に生かせるようにする。 ・自立活動室を使用する際の留意事項をまとめたり、教材・教具の紹介や使用方法を周知したりしていく。 ・仕事内容を整理し、計画的に業務を進められるようにする。	・8月に外部専門家活用事業として校外から専門家を招き、本校職員を対象とした研修会を実施した。また、自立活動部職員や校内の専門性の高い職員と連携して自立活動相談会を実施し、自立活動の指導についての助言や効果的な教材・教具についての情報提供を行った。来年度も継続して実施する。(達成度 90%) ・新規購入した教材・教具や、自立活動部による教材・教具の紹介を行い、学校ネットワークを活用して周知した。夏季休業中に校内研修を実施し、本校自立活動室の利用方法や教材・教具の体験、教材データの保存場所等の紹介を行った。新転任者に特に参加を呼び掛けていけるとよい。次年度に向けて、円滑に業務を進められるよう各係のマニュアルを充実させていく。(達成度 70%)